

令和2年9月中間期 損保決算概況について

1. 保険引受の概況

(1) 正味収入保険料

正味収入保険料は、料率改定の影響による自賠責保険の減収や、海外旅行保険を中心とした傷害保険の減収などにより、前中間期(令和元年9月中間期)に比べ△0.7%(△303億円)減少して4兆3,906億円となりました。

(2) 正味支払保険金、損害率

正味支払保険金は、事故件数の減少による自動車保険や自賠責保険の支払減少などにより、前中間期に比べ△4.2%(△959億円)減少して2兆1,714億円となりました。

損害率は、正味支払保険金の減少などにより、前中間期に比べ△1.8ポイント低下して54.8%となりました。

《参考》

国内自然災害に係る正味発生保険金(注)

	正味発生保険金		
		正味支払保険金	未払保険金
2年9月中間期	1,928億円	630億円	1,298億円
元年9月中間期	2,271億円	222億円	2,049億円

(注)各年度に発生した国内自然災害による全種目合計(家計地震保険を除く)の発生保険金額。

正味発生保険金＝正味支払保険金＋未払保険金

未払保険金とは、支払備金に繰り入れた金額。

(3) 事業費、事業費率、コンバインド・レシオ

保険引受に係る営業費及び一般管理費は、前中間期に比べ△2.1%(△134億円)減少して6,142億円となりました。

諸手数料及び集金費は、前中間期に比べ3.0%(230億円)増加して7,891億円となりました。

これらを合計した事業費が前中間期に比べ0.7%(96億円)増加したことや、正味収入保険料の減少により、事業費率は前中間期に比べ0.5ポイント上昇して32.0%となりました。

損害率と事業費率を合計したコンバインド・レシオは、前中間期に比べ△1.3ポイント低下して86.8%となりました。

(4) 保険引受利益

保険引受利益は、支払備金繰入額の減少(前中間期比△650億円)や正味支払保険金の減少(前中間期比△959億円)などにより、615億円の利益となりました。

2. 資産運用の概況

資産運用収益は、有価証券売却益の減少(前中間期比△259億円)などにより、前中間期に比べ△10.7%(△343億円)減益の2,874億円となりました。

資産運用費用は、有価証券評価損の減少(前中間期比△13億円)などにより、前中間期に比べ△30.3%(△161億円)減少して370億円となりました。

資産運用収益から資産運用費用を差し引いた資産運用粗利益は、前中間期に比べ△6.8%

(△182億円)減益の2,504億円となりました。

3. 経常利益・中間純利益

経常利益は、保険引受利益の増益により、前中間期に比べ56.9%(1,003億円)増益の2,766億円となりました。

経常利益に特別損益や法人税等合計を加減算した中間純利益は、前中間期に比べ11.0%(196億円)増益の1,981億円となりました。

4. 総資産

総資産は、令和元年度末に比べ1.6%(4,905億円)増加して31兆1,385億円となりました。

5. ソルベンシー・マージン比率

ソルベンシー・マージン比率は、協会加盟会社全社とも法律で求める水準である200%を超え、経営の健全性について問題ない水準となっています。

(注) 下線部分は2021年10月20日に修正しています。